清水ケ丘便り

SUWA SEIRYO HIGH SCHOOL NEWS

vol.9 2005.03

■編集・発行 長野県諏訪清陵高等学校 教務(広報情報)係

2月	5日	土曜講座
	10日	前期選抜試験
	18日	前期選抜入学予定者発表
	19日	土曜講座
3月	1~4日	第5回定期考査(1・2年)
	5日	卒業式
	9日	後期選抜試験
	14~18日	春期補習
	18日	後期選抜入学予定者発表
	24日	終業式
	25日	入学予定者オリエンテーション

245名 卒業生巣立つ

3月5日、本校体育館で第57回卒業式が行われました。前日の雪が残る卒業式となりましたが、式が始まるとともに卒業生を祝うかのように会場に日が差し込み、在校生徒・職員・卒業生保護者・来賓各位の見守る中、245名の3年生が本校を巣立ちました。卒業証書授与の後、学校長のはなむけのことばがあり、同窓会長、PTA会長からは励ましのことばを頂きました。続いて、卒業生から学校へ記念品の贈呈としてテントが贈られました。最後に全員で校歌を斉唱し、簡素で厳粛な本校の卒業式が終了しました。

その後、同じ会場で本校学友会の伝統行事である談論会が１時間程行われました。詳しくは、第6面をご覧下さい。

午後はやわらかな春の日差しとなり、コモンスペースでは例年のように各クラブの生徒が集まり記念撮影や花束贈呈を行うなど華やかさの中にも名残惜しそうな光景が見られました。

前期後期の選抜試験が行われました

前期選抜試験（自己推薦）は2月10日に行われました。昨年は募集人員12名に対して10.8倍となりましたが、今年は募集人員24名のところ75名の志願者があり3.13倍でした。午前中は小論文1・小論文2、午後は個人面接が行われ、受検生は緊張した面持ちで試験に臨んでいました。2月18日には前期選抜入学予定者２４名が発表されました。そのうち、観点Ⅰの合格者は17名、観点Ⅱ・Ⅲの合格者は７名でした。また、3月9日には後期選抜試験が行われ、午前中は国語・数学・社会、午後は理科・英語の試験が実施されました。昨年は228名の募集人員に対し志願倍率1.24倍となりましたが、今年は216名の募集人員に対して229名の志願者があり、1.06倍でした。春らしい暖かな日和となり受検生には幸いしました。3月18日に後期選抜入学予定者219名が発表され、前期選抜と合せて平成17年度入学予定者は243名となりました。

また、入学予定者に対してのオリエンテーションは3月25日に行われ、学校側からの諸手続きや入学までの課題の説明に続いて、学友会（生徒会）からは学友会（委員会）・清陵祭・校歌等についての説明やクラブ紹介があり、生徒たちは緊張した中にも新しい世界への期待に胸を膨らませていました。

平成16年度の学校自己評価がまとまりました　第3面、第4面をご覧下さい

SUPER SCIENCE HIGH SCHOOL

SSH is your future……

3年間のSSH指定期間が無事終了しました。来年度からは気持ちあらたに新SSHがスタート致します。

第15回サイエンスフォーラムで遠藤守信教授（信州大学工学部）が講演されました。

第15回サイエンスフォーラムは3月７日に諏訪市駅前市民会館にて「科学力で地域を変える！」と題して信州大学工学部遠藤守信教授に講演をしていただきました。

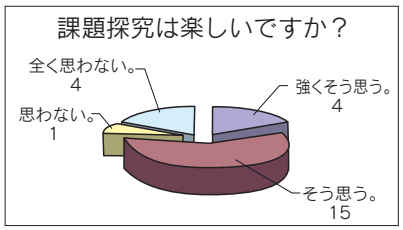
月／日	ＳＳＨ実施記録（SP：サイエンスプログラム）
2/3,9,23,24	数学講座　「多面体とオイラー数」　信大理学部　阿部教授　1年理系
/ 7	化学講座　「液晶パネルの製作・点灯実験」（事前講義） エプソン山田氏　1年S講座
/10	化学SP　「液晶パネルの製作・点灯実験」　エプソン竹内氏他8名 1年S講座（エプソン富士見事業所）
/17,24	「スーパーサイエンス」課題探究中間発表会　2年S講座
/18	地学講座　「大地震！その時君は大丈夫？」　信大理学部原山教授 1年理系
/19	数学講座　「符号理論」　信大理学部　花木助教授　2年S講座
	化学講座　「カラー写真の原理」　諏訪東京理科大　古舘教授　1年希望者
/25	物理講座　「携帯電話のしくみ」　エプソン富田氏　1年理系
	生物講座　「プランクトン生態学」 信大山地水環境教育研究センター花里所長　1年理系
3/ 7	第15回サイエンスフォーラム　「科学力で地域を変える!」 諏訪市駅前市民会館　信大工学部　遠藤守信教授　1,2年
/8,9	化学SP　「真空技術体験」　エプソン戸川氏他4名　2年S講座 （エプソン本社）
/22	物理SP　「時計のしくみ」　エプソン青木氏　1,2年希望者 （エプソン塩尻事業所）

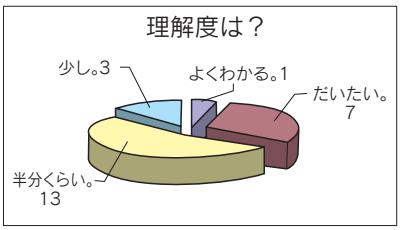
遠藤先生は炭素ナノチューブの研究においての第一人者として知られ、ノーベル賞候補としても注目されている方です。講演では、「日本の景気はテクニカルイノベーション（技術変革）によって立ち直る。」「経済産業の発展は発明に依存される。」などと熱弁されました。研究されているカーボンナノチューブについては、これを使えば富士山よりも高い都市の建設や、地球と人工衛星を結ぶ壮大な計画も実現可能になると強調されました。また、チューブが成長していく様子や曲げても折れない性質などを動画を交えて解説して頂きました。チューブは耐熱性にもすぐれているので、様々な用途に使用すれば我々の生活環境は明らかに変わるでしょう。そして最後に、「勉強に対して払った努力は決して裏切らない」「Never never never、never and never give up！」と生徒達を激励しました。講演後には生徒約20人が先生を囲んで懇談会を行い、活発な質問が出されました。

一般参加者は20人で、アンケートには次のような激励の声をお寄せいただきました。ありがとうございました。「有意義な話しであった。心にしみわたるものであった。…生徒の主催実にすばらしい。」「カーボンナノチューブについて画像を利用してのお話。そして若き清陵生に問いかける愛情ある励ましの言葉、喜寿を過ぎた自分も励まされる思いでした。ありがとう。清陵健児たちよ、未来に向かって羽ばたけ！」

課題探究中間発表会（2月17日、24日実施）

2年ＳＳＨ課程選択者の課題探究中間発表会が本校理科教室にて実施されました。29人が8つのグループに分かれ発表。質問に戸惑いながら次への課題を見つけました。この課題探究は科目「スーパーサイエンス」として2年から3年の授業の中で実施しているもので、今春卒業したＳＳＨ１期生からは3年間で最も高く評価された事業でした。（下図は2年Ｓ講座2月調査）



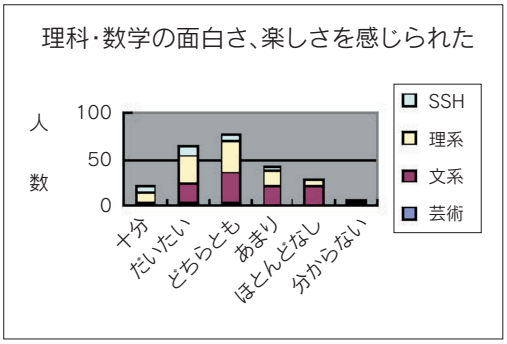


「人工宝石」の研究グループの発表

3年間のＳＳＨ事業も無事終了しました

平成14年度に文部科学省のSSH校に指定されてから予定の3年間が終了しました。ＳＳＨ事業に関わるプログラムとして特別な教育課程を開発したり、大学や企業との連携講座・サイエンスプログラムや15回に及ぶサイエンスフォーラムなどを実施してきました。目標であった理数の面白さ楽しさの体験や自然科学に対する興味関心の喚起についてはある程度達成されたと考えています。この間連携していただいた信大、諏訪理大、エプソン（株）および講師の先生方を初め保護者、OB、一般の方々と多くの方のご協力、ご支援を頂き誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。この3年間の経験と成果及び課題をもとに新たな気持ちでＳＳＨを再スタートする所存であります。清陵高校が地域に愛され地域と共に発展するよう、今後ともご指導ご鞭撻をお願い致します。（17年度指定校の内定を受けており、4月中に正式に決定される予定です。）

図は3年全員対象11月調査



16年度学校自己評価がまとまりました

『SSH充実に向けた学校全体の取組み』（重点目標）、『学力向上』など16年度の6つの教育目標について、あらかじめ定めてある評価の観点に従って、生徒・保護者の皆さんにお願いしたアンケート結果も参考にしながら、「成果と課題」、「改善策・向上策」をまとめました。

評価にあたっては、生徒・保護者の皆さんの本校教育に対する満足度を重視し、アンケートでは「学習指導」、「進路指導」、「クラブ活動」、「学校生活全般」、「選択した進路」の各分野に対する満足度を5段階で答えて頂きました。

その結果、「進路指導」、「クラブ活動」、「学校生活全般」、「選択した進路」の各分野とも満足度「90%以上」あるいは「75%位」の回答が全体の5～7割、「50%位」も加えると8～9割に達し、満足度は概ねよいと判断しました。今年度、課題であった「進路指導」では満足度が高めであったのに対し、「学習指導」への満足度が若干低めであり、教育目標の一つ『学力向上』における課題として、来年度は詳しく分析して改善を図っていきます。

尚、保護者のアンケート結果についてはデータが少ないのでお含みおきの上ご覧下さい。

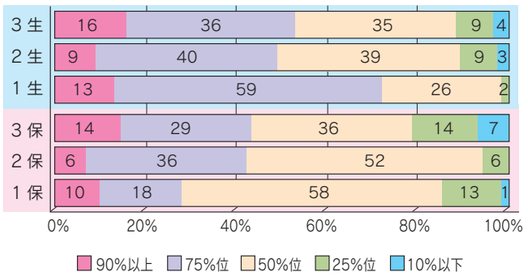
（16年度学校自己評価表とアンケート結果はホームページでも掲載されています。）

16年度
学校評価アンケートに見る満足度（17年3月）

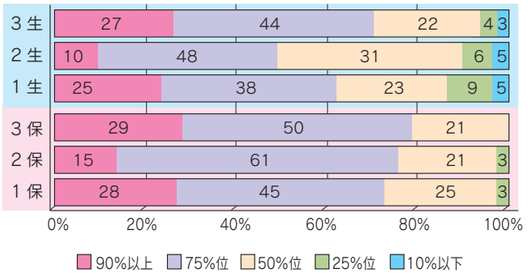
対　象		図の略記号	回答者数	調査月	備　考
3年生	生　徒	3生	233	17年3月	
2年生	生　徒	2生	234	〃	
1年生	生　徒	1生	241	〃	
3年生	保護者	3保	14	〃	1クラス
2年生	保護者	2保	33	〃	2クラス
1年生	保護者	1保	40	〃	2クラス

※記名調査
※図中の数字は%

進路指導に対する満足度



学校生活全般に対する満足度



16年度　諏訪清陵高等学校　評価表～教育目標・取組み・評価～　17年3月

諏訪清陵高等学校

教育目標	取 組 み	評価の観点（参考にした調査等）	○ 成 果 と ◆ 課 題	改 善 策 ・ 向 上 策
SSH充実に向けた学校全体の取組み（重点目標）	①理数に重点を置いた教育課程の導入（1、2年理系） ②大学、企業との連携 ③「清陵サイエンスフォーラム21」の開催 ④各教科における論理的思考力や創造性・独創性を育成する指導	①生徒の自然科学に対する興味・関心を高め、学習意欲・学力が向上する取組みであったか ②生徒の満足度を高める取組みであったか ③連携を効果的に行えたか ④各教科で論理的思考力や創造性・独創性を育む指導に取組めたか ⑤学校全体で組織的に取組み推進できたか （ＳＳＨ意識調査）	○自然科学への興味・関心が高まっている。 【数学を楽しいと感じている生徒→1年理系約75%、2年SSH約93%】 【科学が好きな生徒→2年理系SSH課程96%】 ○SSH全体の満足度は、1年生は前年同様概ね高く、2、3年SSH課程ではかなり高い。 【満足度が90%以上か75%位の生徒の割合→1年理系約37%、2年SSH約52%】 【科学への興味関心や知的探究心が喚起された→3年SSH約80%】 ○連携方法の改善により1年生の意識が全体的にさらに好ましい変化がみられた。 【連携講座は学習意欲を高める内容であったと思う1年理系生徒→前年度32%、本年度44%】 ○理数の教員を中心にSSHに取り組む姿勢や授業改善への意欲が向上した。 ◆1年生後期からの文理分けは、文系生徒の理数科目に対する意欲をそいでしまう傾向が指摘されている。 ◆連携講座、サイエンスフォーラムの回数が多く、担当の教員にかなり負担になっている。生徒も多忙になり学習に力を注げなくなっていると感じている教員もいる。	①理数における指導方法、指導内容の一層の工夫・改善・充実のための研究と実践 ア　理数に対する興味・関心の高まりを学習に向かわせる イ　科学的リテラシーの育成 ウ「課題探究」における指導経験の更なる蓄積と指導方法の開発 ②そのための校内研究推進体制の整備 ③連携講座やサイエンスフォーラムの回数を減らし、質的な充実をはかる
生徒の学力向上	①各教員の指導力向上と授業改善 ②各教科における課題の明確化と解決に向けた計画的な取組み ③先進的な取組みの活用；SSH、生徒による授業評価、自反会（土曜講座）、授業シラバス	①生徒の学力が向上したか ②生徒の満足する授業、知的探　究心を喚起する授業ができたか ③生徒による授業評価に基く授業改善がなされたか ④各教科の課題が解決されたか ⑤自反会の目的が達成されたか ⑥シラバスの整備、活用とそれに沿った授業展開ができたか （生徒学習状況調査、校外模試、センター試験成績、生徒による授業評価、自反会満足度調査）	≪評価の観点①≫　○大学進学率及び国公立大学への合格者数が前年より向上した。 ○全国規模の模試の成績が向上した（2年）。○校外模試における前学年との比較では好結果である（1年）。 ◆難関大学へチャレンジする実力と気持ちを育てる指導。 ◆拡大する上位者と下位者との差に応じた指導（2年）。 ◆家庭学習の時間が減少しており不十分である（全体）。 ◆2年生の中だるみが解消されない(全体)。 ≪評価の観点②≫　◆アンケート調査の結果では生徒からの評価が他の項目と比較して芳しくない。 ≪評価の観点③≫　◆教員によって対応に大きな差が見受けられた。 ≪評価の観点④≫　○解決に向け着実な前進が見られた。 ≪評価の観点⑤≫　○自反会の意義について理解が進んでいる。 ○講演会や懇談会など活動内容も充実してきた。　事務局長が分掌上に位置づけられ、運営が円滑化してきた。 ◆目的にそった事業内容の一層の創意・工夫　◆学力伸長のための補習授業の開発　◆年度当初の段階では相手との関係などで計画の具体化が困難な事業をどう扱うか。 ≪評価の観点⑥≫　◆シラバスの意味が生徒に周知不足の面がある。 ◆生徒からの評価は他の項目よりやや低い。	①予習→授業→復習という基本サイクルを大切にする姿勢を徹底させ、特に家庭学習の充実と時間の増加をめざす。 ②単なる受験対策に終始せず、学ぶことの意義や楽しさにつながる企画を実施する。 ③大学訪問、見学など大学を身近に感じさせ意欲の喚起に繋げる事業や、OB・大学などの協力を得て、学問の最前線を知る機会などを積極的に設け、自ら学ぶ姿勢を涵養する。 ④生徒による授業評価に対しては足並みをそろえて全員が必ずきちんと対応する仕組みを整える。 ⑤シラバスに関しても校内で扱いを統一し、製本する。形式も全教科で統一にする。
主体的な進路選択と進路実現の支援	①合同ＨＲ、講演会、自反会交流会（先輩外部講師）等による進路意識の向上と進路研究への支援 ②実力テストや校外模試の分析と事後指導 ③生徒、職員への進路情報の還元 ④指導の継続及び改善のための進路係と各学年間の連携	①生徒の進路意識を向上させ主体的な進路選択ができるような取組みができたか ②生徒の自己目標実現のための指導に十分取組めたか ③実力テストや校外模試が有効に活用されたか ④進路情報が生徒、職員に適切に伝えられたか ⑤進路係、各学年間の連携が十分に図られたか （大学合格状況、校内実力テスト・模試の検討会回数、生徒満足度調査）	≪評価の観点①②≫○HRの時間などを活用し、各担任を中心に着実な指導ができた。 ◆新しい指導の試みがなされないままであった。 ≪評価の観点③≫○職員会に模試の結果が報告されるようになり、情報を共有できる仕組みが定着してきた。 ◆結果に目を奪われがちで結果分析が不十分になっている点もある。 ◆各学年での結果分析に止まる傾向があり、担当教科や授業担当者に十分な情報が提供されていない面もある。 ≪評価の観点④≫○職員に向けては、係で必要と判断した情報は職員会を利用して共有を図った。 ○学年ごとに「進路便り」がたびたび刊行され、提供できた文字情報は大幅に増加した。 ◆各学年ごとに段階に応じた資料の提供に心がけたが、重要性が伝わらない生徒も相当数いる。 ≪評価の観点⑤≫○3学年は進路室常駐者がおり、学年会の会場の関係もあって一応の連携はとれた。 ◆上の学年の取り組みに学ぶ機会が作れず、せっかくの経験が十分共有されていない。	①日常的な働きかけを強めて進路の問題を意識させ、自分を見つめる機会を持たせる。 ②生徒の将来の進路に関する家庭での話し合いを促す取り組みを始める。 ③低学年時から将来の目標を具体化させるような仕掛けを工夫する。 ④実力テストや校外模試の結果分析担当者を学年ごとに決めておく。 ⑤実力テストや校外模試の分析結果を「進路便り」などを通じて生徒や家庭にフィードバックしていく仕組みを整える。 ⑥各学年とも最低１名は進路指導室常駐者を確保する。 ⑦保護者対象の進路選択・入試説明会の充実
学友会の自主的活動支援とクラブ活動の活性化	①顧問の適切な指導と練習方法の工夫 ②活動時間の保障	①学友会活動を自主的に推進するための指導ができたか ②クラブ活動の時間、場所を保障し適切な指導ができたか （クラブ加入者数、生徒満足度調査）	○生徒を中心とした企画運営ができた。職員生徒連絡会を復活し、生徒への問題提起を行うことで、学校生活における問題点を学友会を通しても再認識させることができた。 ○クラブ活動の時間、場所については概ね保障できている。 ◆正副会長等の選挙時における立会い演説会への出席率や投票率などから生徒の自主性、自治の力の低下を感じる。 ◆一部のクラブにおいては活動場所に問題があるようだ。	①クラブ活動について係で全てを把握することは不可能なので、各顧問との連携を密にし意見等を求めていきたい。 ②クラブの活動場所については原則としては各施設とも内規の使用規定に基づいたクラブ活動を推進したい。限られた時間や場所で最大限の成果がでるようなクラブ活動を考えさせていきたい。
自主・自立性に基づく”清陵生としての自覚”を高める指導	①学友会の諸機関と協議して、生徒に自ら考えさせる指導 ②不登校の傾向がある生徒の指導体制の検討	①学校生活の様々な場面において適切な指導ができたか②学友会との効果的な連携ができたか ③生徒の自主・自立性を尊重した指導ができたか ④不登校の傾向がある生徒の指導体制の検討が進んだか	○職員生徒連絡会において「校内の美化」を提起したが、それに対して大掃除における校内の雑巾がけや、体育館を利用するクラブからの上下履きの区別に対する抗議の掲示等今までにない活動が始まってきている。 ○部室の管理に関して、生徒に考えさせることができ、鍵の管理についても改善の方向を見出しつつある。 ○学友会係と生活指導係が連携して指導が行えた場面があった。 ◆「校内の美化」「上下履きの区別」に関しては方向性を見出すべきだと考える。 ◆部室の管理についても盗難等を考えると、管理責任者＝クラブ顧問という意識を生徒に持たせるようにしていきたいと感じている。 ◆不登校傾向の生徒の指導体制について、生活指導係の人数が減員されたこともあって、基礎的研究だけにとどまった。	①部室の管理・校内の美化・上下履きの区別については今後も継続的に検討していく。 ②学友会係と生活指導係が定期的に連絡を持つことも検討したい。
前期選抜の改善と広報活動の充実	①前年度の反省をふまえた前期選抜の改善 ②広報情報係の新設、ＨＰの充実、広報誌「清水ヶ丘便り」発刊、学校案内ビデオ・パンフレット作成、中学校訪問	①わかりやすい選抜基準であったか ②選抜が円滑に実施できたか ③ＨＰ、「清水ヶ丘便り」等は充実していたか ④本校の教育活動を保護者、中学校、地域住民等に十分に伝えられたか （ＨＰ更新回数、「清水ヶ丘便り」発行回数）	○「募集の観点」をより具体的に改め入試説明会、体験入学でも具体的に説明したこと、県教委が各校で調査書、小論文等の比率を「評価方法」で示す改善を行ったことで前年度よりわかりやすくなったのではないか。 ○選抜は円滑に実施できた。 ○担当係の体制は充実してきている【ＨＰ更新回数増、清水ヶ丘は計画通り4回発行】。ＨＰは　○入学者選抜では有効に活用されたが　◆SSH担当、学友会係等と担当係が共同して作成する体制が十分にはできていない。 ○授業公開の実施（3日）やＨＰ、清水ヶ丘便り（本年度はPTA総会でも配付）等により教育活動を理解していただく学校としての努力はできた。	①前期選抜は中学校側の意見を聞き、県教委の改善に向けた動きもふまえ、改善に引続き努力して行く。 ②ＨＰ作成をSSH、広報情報等校内の各係と作成係の共同により充実させる。「清水ヶ丘便り」はさらに内容を充実させ年４回発行するが、財源の見直しを行う。（16年度は県教委の「創意ある高校づくり」事業経費を充当） ③来校していただきやすい授業公開日の設定を工夫するとともに、保護者には例えば学年通信、学級通信などにより学年、クラスからのより身近な情報発信も検討して行きたい。

第1回 本年度卒業生の一言

本年度卒業生から、随想を寄せてもらいました。

卒業式を控えて　丸山 悠太

山梨大学医学部医学科

あと一日で、私の高校生活は終わろうとしている。卒業を目前に控えた今、自分の歩んできた三年間に名前を付けるとするならば、迷わず「茨の道」とするだろう。入学直後に言われたあの言葉、「清陵での三年間は、自ら行動を起こせば起こすほど素晴らしいものになるよ！」。そしてそれを鵜呑みにしてしまった若干十五歳の自分。臆することなく様々な活動に参加した結果、睡眠時間は減り、悩みは増えていった。

しかし、しかしである。その言葉は嘘ではなかった。私の中に悩み以上に増えていったもの、それは、豊富な経験、色褪せない思い出、多くの仲間･･･。名前に一語を加えることにしよう、「輝ける茨の道」と。

清陵というのはある意味凄い所で、自ら動かない生徒には無情で冷たい。しかし、いざ行動を起こしてみれば、素晴らしい環境へと変貌をとげる。体力を求めればトレーニング機器を、経験を求めれば様々な大舞台を、学力を求めれば時間と場所と参考書を、支えを求めれば温かい手を、そして夢を求めれば考える時間と機会を与えてくれる。だから清陵生には、何かを求め、どんどん行動を起こしてほしい。どんな事でもかまわない。求め、行動を起こした人にとって、清陵は最高の環境となるはずだから。

私は今、清陵生である事を誇りに思っている。明日の卒業式では大泣きしてしまうかもしれない。みなさんもどんどん行動し、誇りを持って生活して下さい。母校の更なる発展を願っています。

清陵での３年間　高曽根　健

信州大学医学部医学科

清陵での3年間を振り返れば、それは忙しいながらも中身の濃い日々であったと思います。そして、特に私の卒業後の生きる力を与えてくれたのがクラブ活動とＳＳＨ（スーパーサイエンスハイスクール）関係の勉強でした。クラブは、書道、山岳、歴史研究同好会に所属していました。書道は、県の展覧会では周りは他校の女子ばかりの天国、歴研は横浜旅行にいったりと楽しい思い出があります。一方で、山岳部では先生と部員2人だけで山に登りました。無謀でした。行きは荷物の重さに苦しめられ（何しろ二人で持たねばならなかったので）途中先生とはぐれたりとしんどい思いをしました。

また、ＳＳＨでは他校では味わえないような貴重な経験をさせていただきました。第一に、サイエンスフォーラム(講演会)では信州大学をはじめとする多くの優れた医師のお話を拝聴できたことが、夢への原動力となり、受験を乗り切ることができたと思います。そして、フォーラムスタッフとして活動することで、生徒を主体として活動する清陵の自治のすばらしさを再認識しました。第二はグループによる課題研究で、私のグループはミジンコについて研究しました。この研究で、群集であるということで生物が毒のために受ける影響を強めるなど多くのことが学べました。特に、花里先生をはじめ山地水環境センターの先生方からは、大学で研究し学ぶ楽しさを教えていただきました。

私は清陵のおかげでこうした機会、優秀な仲間、先生に恵まれ、単なる受験勉強以上のことを学べたことに本当に感謝しています。

進路指導室より

清陵の周囲も日に日に春めいてきましたが、この数日は進路指導室や3学年の担任の先生のところにも、外の明るさに負けないくらいに満面の笑みを浮かべた生徒や卒業生が合格の報告に来てくれる姿が多く見られるようになりました。

今号では今春の大学入試の結果について簡単にご紹介しましょう。一足先に終了した私大入試では、早大5・慶大3・明大8・法大13など関東の有名大を中心に順調な合格実績を残しており、関西の名門である立命大にも13名が合格しています。そして、昨年に引き続いて自治医科大にも合格者が出ました。入試結果が良かったために授業料の減免などが受けられる特待生として迎えてもらえる生徒も何人かいるようです。

また、前期分がほぼ判明した国公立大学でも例年のように東大・東工大・一橋大・東北大などのいわゆる難関大への合格者が出ています。現在（３月14日）までに66名の合格者を把握しており、昨年同時期の数字を10名近く上回っています。その中には今年から始まった信州大学医学部(医学科)の県内枠での合格者や、新潟大、山梨大の医学部医学科合格者も含まれています。今後も中期・後期日程の合格者数が加算されていきますので、昨年実績にまさる結果になることは間違いないと思われます。

さらに、過年度の卒業生も一年間培った力をしっかり発揮したものが多かった様子で、待望久しかった朗報がたくさん届いています。全員の結果は掌握しきれませんが、京大や東工大、一橋、北大、東北大、阪大、九大などに合格者がいることが判っており、ほとんどがそれぞれの目標大学に合格することができたようです。

今回はまだ中途での報告ということをご了解ください。最終的な合格実績については正確な集計ができしだいHPなどでご報告したいと考えています。

清陵の百年 第4回

第４回は戦後を見ます。教育の自由化など様々な改革が行われ、清陵もこうした流れの中で、授業を再開し、学友会が復活して会則を改正し民主化を進めました。湖周マラソンと端艇大会も復活しました。昭和22年に三年制新制高校となり、校名が諏訪中学校から諏訪清陵高校に変わり、この時新しい校章を梶の葉のみと決め、校旗を新調しました。開校以来男子単独校でしたが、昭和25年に女子に門戸を開き、14名が入学しました。

〈いざファイヤーストーム〉

昭和26年から清陵祭が行われるようになり、多数のクラブの地道な研究発表がありました。昭和20年代中頃から世界情勢が変わり、昭代の変化に敏感な清陵生に影響を与え、談論会で平和や安保改定について議論されるようになり、正義を求める熱気は、昭和35年全校の市中行進となりました。戦後の経済復興が進むにつれ、関心は生活の豊かさに移り、ひたすら大学受験に集中し、激しい受験競争に入って行きました。その後女子生徒が増えて共学が定着します。受験競争の一方で、校則のない自由な雰囲気の清陵らしさを肌で感じています。昭和40年代前後、「長野県諏訪清陵高校理科教育振興基金」の設立と「三澤勝衛先生記念文庫」の建設が行われ、清陵の教育の大きな後楯となっています。昭和63年に現在の校舎が完成し、平成７年に創立100周年記念事業を行いました。

〈創立100周年記念式典〉

学友会コーナー

新役員の紹介

2005（平成17）年度前期新役員が決まりました。そこで、新三役の皆さんに学友会への意気込みを聞いてきました。

＜新学友会会長…2－1　五味　紘大（写真左から２人目）＞

人という字は「人と人が支え合ってできている」一般的にはこう言われてる。でも俺は違う。どう見ても片方は頑張って支えてるけど、もう片方は上に乗って楽してる。それも人。それが人。そう誰しもそういう汚い心を持っている。それでこそ人だ。時にはそんな心に負けちゃう時もあるんだろうね、人だもん。でも「人だから」に甘えすぎてずっと楽してるのは正直格好悪い。そして、そんな格好悪いヤツにはお仕置きが必要。そうだな、とっておきのミラクルなパンチでもおみまいしてやろう。今まで下で頑張って支えていた「人」の片方がむっくり立ち上がって、上で楽してるヤツにパンチしてやったらどうだろう。想像してみて。ほら、なんと「力」になった。俺驚いちゃったよ。でももっと驚くべきこと発見した。これって清陵に似てない？　今の清陵生「自治だから」に甘えてる。だったらきっとミラクルなパンチをおみまいしてやんなきゃ。このパンチで目を覚ました清陵生は凄い「力」になるはずだよね。まさに無敵さ。ということで、今の清陵人を力に変える、そんな会長になれたらと思います。短い期間ですが精一杯頑張るのでよろしくお願いします。

＜新学友会副会長…2－7　小松　あすみ（写真右端）＞

前期学友会副会長になった小松あすみです。会長と一緒に清陵の《自由》の意味をしっかりと頭に入れて頑張っていきたいと思います。

＜新学友会副会長…2－5　笠井　悠太（写真左端）＞

前期学友会副会長になった笠井悠太です。清陵の自治を見直し、会長と良い学友会を築きたいと思います。

＜新役員の面々＞

清陵祭に向けて

＜清陵祭実行委員長 2－6 小林　雄一（写真右から2人目）＞

清陵祭に向けてスタートした活動！　考えと実行とは程遠く、新しい活動や、昨年に引き続く内容をいかに成功させるかを考えている状態です。より多くの人が清陵祭に共感し、活動に参加してくれるために必要なものとはなんなのだろうか？　これから多くのアンケートなどを通じ、清陵祭への意識を高めていきながら全校生徒と一丸となって活動していきたいと考えています。時間の許す限り、精一杯活動していきたいと思いますので、ご協力よろしくお願いします。

クラブ紹介8～女子バレーボール部～

女子バレーボール部です。私たちは、1年生7名、2年生3名の計10人で活動しています。少人数ではありますが、小池忠男先生の熱心なご指導の下、どこにも負けない明るさで頑張っています。また、バレーボールを通して、信頼と感謝を学んでいます。春には県大会出場、さらにもっと上を目指して、日々の努力を怠らず、精一杯練習に取り組んでいきますので、これからもよろしくお願いします。最後に……【苦しみは喜びの貯金】です！！　（2－7　古屋　尚子）

談論会

3月5日、卒業式が行われ245人が卒業した後、談論会が行われました。卒業生も在校生も、今みんなに伝えたいことや自分の思いなど、自由にステージに出て伝えていました。一人ひとりの気持ちが伝わってくる、とてもいい談論会だったと思います。

■ ご意見ご感想をお寄せ下さい ■
長野県諏訪清陵高等学校　〒392-8548 長野県諏訪市清水1-10-1　tel.0266-52-0201　fax.0266-57-2426
H.P.　http://www.nagano-c.ed.jp/seiryohs　e-mail　seiryohs@nagano-c.ed.jp